

■ ■ ■ 著作権法（著作者） ■ ■ ■

Q1 ゆのさんが描いた下絵に宮子さんが色を塗ってできた油絵の著作者は誰？

A1著作物にあたるので.....が著作権を持つ

著作権法 2 条 ① 項 十二号 共同著作物とは「二人以上の者が共同して創作した著作物であつて、その.....の.....を.....して個別的に利用することが.....もの」をいう

Q2 秋山 澗が作詞し、琴吹 紬が作曲した『ふわふわ時間』の著作者は誰？

A2 通常は.....として利用されるが、詞と曲を.....することができる
.....著作物 → それぞれが創作部分について権利を持つ

Q3 A の書いた.....をもとに B 監督が.....を製作した。すると、サブヒロインが大人気になった。そこでスピンオフ作品が作られることになり、マンガ家 C によって.....が描かれた。

A3 既存の.....を元にして.....な.....的.....を加えたものは.....になる〔法 2 条 ① 項 十一号〕

例) 「.....みた」,, 映画化, 翻訳など

! 原著物の著作者は、二次的著作物の.....に対して、.....を.....できる

★事件（最高裁 平成 13 年 10 月 25 日 判時 1767-115）

水木 杏子 (X) が.....を考えて原案を書き、いがらしゆみこ (Y) が.....

して『なかよし』に掲載された少女まんがは、1976 年にアニメ化されて大人気となった。その後、Y が X に断り無く複製原画を販売したり、美術館に絵を展示するなどしたため、X は Y に対して行為の

差し止めを求めた。このアニメや原作マンガの著作者は誰なのだろうか？

[考え方の整理]

i) もし _____ 著作物なら : _____ も _____ も _____ な権利を持つ

→ アニメの _____ を作ろうとするなら _____ の許諾が必要

ii) もし _____ 著作物なら : Yは _____ に関する権利だけを持つ

→ Xが、Yのイラストを使わずに _____ (ノベライズ版) を出したり、YからZに _____ を代えて (Y抜きで) _____

版を製作しようという場合、Yの許諾は不要

注) どちらのパターンであっても、アニメをそのまま _____ したり、アニメの絵を元にして _____ を制作したりするには _____ の許諾が必要

● _____ の著作物

★ 宇宙戦艦 _____ 事件 (東京地裁 平成 14 年 3 月 25 日 判時 1789-141)

企画を立ち上げて資金や人を集めた _____ ^{にしぎきよしのぶ}である西崎 義展 (Y) と、キャラクターデザイン等を行い「 _____ 」と表示されていた ^{まつもと れいじ}松本 零士 (X) との間で、『ヤマト復活編』の製作をめぐり、どちらが著作者かについて争われた。

著作権法 16 条 「映画の著作物の著作者は、(中略) 制作、監督、演出、撮影、美術等を担当して その映画の著作物の _____ に _____ 的に _____ した者とする」

→ 裁判では、全体的形成に創作的に関与したのは ^{もつば}専らYであって、Xは _____ 的に _____ したにすぎない」とされた。

※ その後XとYは和解し、テレビアニメは《共同著作物》とすることに合意した

西崎義展

西崎 義展（にしぎき よしのぶ、正式には「西崎義展」、1934年（昭和9年）12月18日 - 2010年（平成22年）11月7日）は、プロデューサー。

1970年には手塚治虫の知人からの紹介で、手塚と個人契約を交わしてマネージャーを務めるようになり手塚作品のテレビへのプロモートを行った他。1971年2月頃より、手塚が社長の虫プロ商事に企画制作部長として就任。多忙な手塚に代わり事実上の社長代理として経営改革を図ったが、急進的な改革は専横状態となって人心を掌握できず、虫プロ商事は混乱状態に陥る。

1972年、手塚治虫原作のテレビアニメ『海のトリトン』でアニメを初プロデュース。同年にオフィス・アカデミーの社長に就任し、同社を商標及びその二次使用会社とする。

個人プロデューサーとして、1973年1月より瑞鷹エンタープライズのテレビアニメ『山ねずみロッキーチャック』を製作。同年4月より虫プロ制作で『ワンサくん』を放送した。放送終了後の11月に役員を務めた虫プロが倒産。虫プロの再建運動を進めていた労働組合と交渉して、1974年6月に和解。第2スタジオの建材と西崎の虫プロへの債権を組合に譲渡するとともに200万円を組合へカンパするというのがその内容。

1977年に『宇宙戦艦ヤマト』を再編集した劇場版アニメ映画がヒット。翌1978年には新作映画『さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち』は配給収入21億円の大ヒットとなりブームを巻き起こし、『宇宙戦艦ヤマト』をシリーズとして展開。財産を築いて、銀座で毎晩飲み歩き、ハーレーダビッドソンのオートバイは25台を所有。高級マンションや大型クルーザーを購入して豪遊した。

『宇宙戦艦ヤマト』シリーズも1983年公開の『宇宙戦艦ヤマト 完結編』でいったん終焉。

『DESLAR'S WAR I 戦艦スターシャ』、『宇宙戦艦ヤマト誕生篇』へ続く「ヤマト復活3ヵ年計画」の第一弾『オーディーン 光子帆船スターライト』が1985年に劇場公開されるが、配給収入の推定は2億円と大失敗となり、借金を抱える結果に終わった。

経営破綻したレンタルビデオの童夢の事業を1987年から引き継いだが営業不振によって1990年代になって資金難に陥る。1997年にウエストケープ・コーポレーションとともに西崎個人も破産。この過程で資金調達のため『宇宙戦艦ヤマト』シリーズを含む製作した作品の著作権を失う結果を迎える。1997年末と1999年には覚醒剤取締法違反と銃刀法違反で逮捕された。